

慶應義塾大学

慶應看護 100年記念事業

お問い合わせ先

慶應義塾大学湘南藤沢事務室看護医療学部担当

〒252-0883 神奈川県藤沢市遠藤4411

Tel:0466-49-6200 Fax:0466-47-0268

E-mail:nmc-staff@adst.keio.ac.jp

慶應看護100年記念事業の 開始にあたりまして

MESSAGE



看護医療学部長
太田 喜久子
Kikuko Ota

ご挨拶

慶應義塾における看護教育は、初代医学部長でいらした北里柴三郎博士が医療における看護の重要性を評価され、医学教育開始の翌年となる1918年に看護婦養成所を設置されたことから始まります。その後、社会のニーズに対応したいくつかの機構の変更があり、厚生女子学院、慶應義塾看護短期大学と改組され、2001年に看護医療学部が塾の9番目の学部として誕生しました。多くの皆様のご尽力により学部開設につながったことを衷心より感謝致します。看護教育のはじまりから今日まで、慶應義塾の建学の精神である「独立自尊」、「実学」を重んじる精神は連綿と引き継がれています。看護医療学部では、このような伝統を生かし、医療を受ける人々の病気を治すケアと人々を癒し生活機能を支えるケアの双方の視点を持ちながら、それぞれの人々のQOLとよりよい健康状態が獲得できるよう根拠を持った働きができる人材を育成しています。これからの複雑で変化に富む時代に求められる新しい保健、医療、福祉のあり方をグローバルな視点を持って先導できる

人材を育てることを学部の使命としています。学部卒業生も、看護実践家として自己を究めている者、看護の専門性を高めるため大学院に進学する者、研究・教育職をめざす者、国際分野で活動している者、健康ビジネスをはじめめる者など活躍の場が広がっており、いずれも看護医療学部で学んだ専門性と得た資格を生かしながら、自分の道を切り開いていると思います。2018年には慶應で看護教育がはじまってから100年という大きな節目を迎えます。これを記念して、慶應看護100年史の編纂や、看護実践のベストプラクティスを生み出していくための研究教育基盤づくりを計画しています。記念事業のため、慶應看護同窓会紅梅会で実施して下さる募金活動には、学部をあげて連携、協力致します。本記念事業の目的を達成し、さらにその後の新たな歴史を刻みながら、学部一体となって教育研究活動を発展、推進して参ります。慶應看護100年記念事業へのご理解を頂き、皆様の大きなご協力とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「慶應看護記念事業資金」募金について

慶應義塾における看護教育の歴史は、1918年（大正7年）の医学科附属看護婦養成所の開設に始まり、2018年には100年という大きな節目を迎えます。これまで、慶應看護は約7500名の卒業生を輩出し、時代の要請に応じて看護専門職育成の教育機関として責任を果たして参りました。2007年には博士課程が開設され、慶應義塾がめざす先導者としての看護の役割と責任を果たし、さらなる発展と刷新をしていくことが期待されております。慶應看護100年を迎えるにあたり、紅梅会では前会長の藤村龍子姉が中心となり、看護医療学部と合同委員会を発足し、2つの記念事業（慶應看護100年史の編纂・発行、看護ベストプラクティス研究・教育基盤強化）を計画いたしました。また、2013年の紅梅会総会で慶應看護100年記念事業支援活動についての承認を得て、会員名簿の整備・発行、慶應義塾大学常任理

事への説明、慶應義塾基金室との相談、募金趣意書ならびに募金要綱の作成、記念事業を推進するための特別委員会の設置等の取り組みが行われて参りました。このたび、諸々の準備が整いましたので、慶應看護100年記念事業を成功させるために、2014年7月から2017年3月まで募金を実施する運びとなりました。この記念事業を通して、会員の皆様が、福澤諭吉先生の建学の精神である「独立自尊」「社会の先導者たれ」「実学」等について改めて確認し、母校への敬愛と誇りを持ち、新たな歴史認識と慶應義塾への貢献について考える機会となればと考えております。つきましては、慶應看護に尽力された諸先輩方々の意思を引き継ぎ、よりよい看護教育ならびに看護実践活動を推進・継続するために、募金の趣旨をご理解いただきまして、皆様方のご支援とご協力を賜りますように何卒よろしくお願ひ申し上げます。



慶應看護同窓会
紅梅会 会長
三上 れつ
Retsu Mikami

事業概要及び募金用途

1 慶應看護100年史編纂・発行、アーカイブ

慶應義塾の看護創立以来の歩みをまとめ、更なる発展につながるよう「慶應看護100年史」を発行します。「歴史のなかに、未来が見える」そのような100年史の編纂をめざしています。また、年史を執筆するにあたって、基礎となる資料を改めてきちんと整理するため「慶應看護アーカイブ事業」も並行して行います。慶應看護の歩みを伝える歴史資料を広く収集し、保管して次世代に継承していきます。

2 看護ベストプラクティス研究・教育基盤強化

<看護ベストプラクティスの目的・活動>

超高齢社会が急激に進む日本において、疾病構造の複雑化やニーズの多様性に対応できる看護への期待がますます高まっています。看護医療学部では、生活者にとって「最善の看護実践」をめざし、看護の質向上やそれを牽引するリーダーの養成を目的とした<看護ベストプラクティス研究教育基盤形成>をすすめています。



看護ベストプラクティ斯拉ボラトリの概念図

ネット環境整備

“環境整備・強化” 小・中規模ミーティングルーム・ 研修ルーム活用による活動の拡大

慶應看護100年に向けて、「看護ベストプラクティス」の研究教育基盤をより強化します。さらに、生活者の医療や看護に対する理解・知識をより深いものにしていくために、生活者と共に“健康教育マテリアル”の開発を目指します。そのために、研修ルームの整備や、開発した教材のデジタル化、インターネットを取り入れて実施する地域とのケア連携体制の開発を進めていきます。

募金概要

- 募金主体 慶應看護同窓会 紅梅会
- 募金対象 紅梅会会員、看護医療学部教職員(旧・現)、旧看護短期大学教職員、旧厚生女子学院教職員、趣旨にご賛同下さる方々等
- 募金目標額 2,000万円(一口10,000円、できたら二口以上)
- 募金期間 2014(平成26)年7月～2017(平成29)年3月
- 寄付金控除 この募金は慶應義塾(特定公益増進法人)に対する特定寄付となり税制上の優遇措置を受けることができます。